



Kumamoto City

News Release

平成30年3月27日

E3 九州自動車道『城南スマートインターチェンジ』 開通6ヶ月後の交通状況と整備効果について

E3 九州自動車道『城南スマートインターチェンジ』が平成29年7月9日に開通しました。開通6ヶ月後の交通状況と整備効果について整理しましたので、その結果についてお知らせします。

城南スマートICは当初計画以上にご利用いただいております、大型車利用台数も増加傾向にあることから、工業振興を支援していると考えます。また、城南スマートIC開通に伴う高速道路利用の誘発効果によって、国道266号の渋滞緩和に寄与していると考えます。

城南スマートICの利用状況

- 平均利用台数：約2,300台/日（計画交通量1,400台/日）
- 大型車利用率：約27%（平日）

（調査期間：H29.12.1(金)～H29.12.28(木)の平均値）

計画交通量を約900台上回る利用台数を確認、大型車利用台数も増加傾向
九州自動車道までの新たなルート形成に伴い、城南スマートICの利用が促進
国道266号の主要渋滞区間では、断面交通量が約5%減少

開通による効果

■ 工業振興を支援

高速道路ICまでの所要時間短縮により、多くの企業が城南スマートICを利用
輸送時間が短縮し、ドライバーの負担が軽減
輸送経路の選択肢が拡大し、物流の効率化を促進

■ 救命救急活動への支援

救急搬送において城南スマートICが利用され、高速道路を利用した円滑な搬送による患者への負担軽減や、搬送時間短縮による救命率向上に期待

【お問い合わせ先】

熊本市 都市建設局 土木部 道路整備課
電話：096-328-2484

課長：沼野 猛 副課長：今村 寿也
ぬまの たけし いまむら としや

城南スマートインターチェンジ開通 6 ヶ月後の交通状況と整備効果

城南スマート IC の交通状況と所要時間の変化

- 開通 6 ヶ月後の平均利用台数：約 2,300 台/日（開通 1 カ月後：約 1,800 台/日）
- 大型車利用率は平日で約 27%（開通 1 ヶ月後：約 23%）
- 熊本市南部地域から御船 IC 及び松橋 IC までの所要時間が短縮

○城南スマート IC の平均利用台数は徐々に増加しており、開通 6 ヶ月後で約 2,300 台/日の利用が確認されました。計画交通量 1,400 台/日よりも約 900 台上回っています。

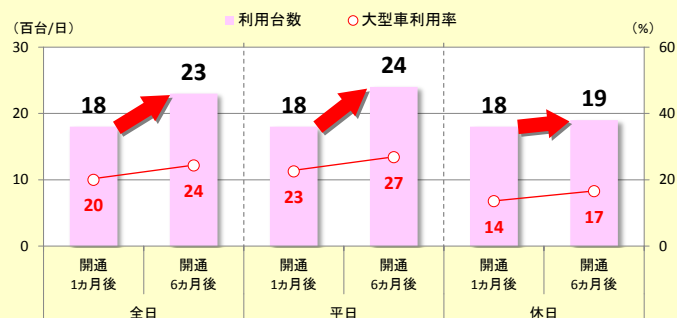
○大型車利用台数も増加傾向にあり、更なる物流の支援による生産性向上が期待されます。

○九州自動車道までの新たなルート形成により、城南まちづくりセンターから御船 IC まで約 8 分、松橋 IC まで約 3 分短縮し、高速道路の利便性が向上しました。

○九州自動車道上り線（九州北部方面）を利用する場合、国道 266 号の主要渋滞区間を回避したルート選択が可能になりました。

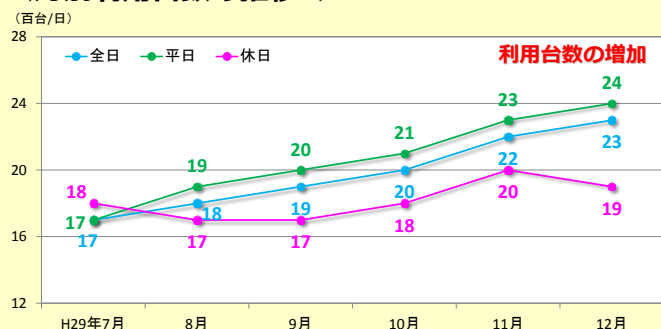
■城南スマート IC の利用台数

<利用台数の変化※>



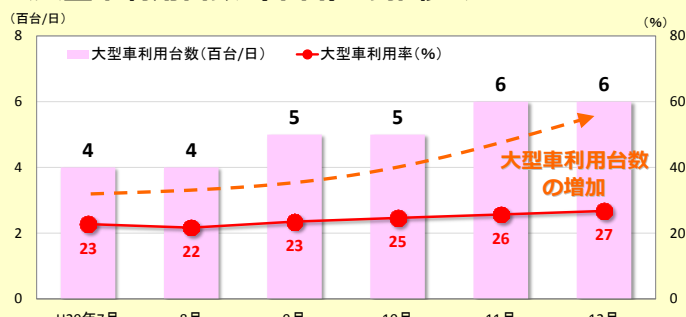
※開通 1 カ月後：H29. 7. 16～8. 5 [城南スマート IC 開通後第 2 週～第 4 週]
開通 6 ヶ月後：H29. 12. 1～12. 28 [年末の 12. 29～12. 31 は除外]

<月別利用台数の推移※>



※7 月は 10 日以降の集計、12 月は年末（29～31 日）を除外した集計

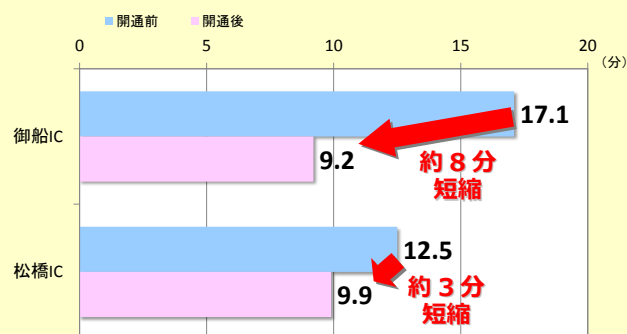
<大型車利用台数（平日）の推移※>



※7 月は 10 日以降の集計、12 月は年末（29～31 日）を除外した集計

資料：西日本高速道路株式会社九州支社

<城南まちづくりセンターから 御船 IC、松橋 IC までの所要時間の変化※>



※開通前：H29. 5. 1～5. 31、開通後：H29. 11. 1～11. 30 の平日平均

本田技研工業（株）インターナビ統計データより算出

周辺 IC および国道 266 号の交通状況

- 周辺 IC である御船 IC・松橋 IC の利用状況は大きな変動なく推移
- 国道 266 号の主要渋滞区間（嘉島町上仲間交差点付近）では、城南スマート IC の開通に伴い、断面交通量が減少

○ 城南スマート IC の開通後、周辺 IC の利用状況に大きな変動はなく、城南スマート IC の利用台数は増加傾向にあることから、高速道路の利便性向上により、城南スマート IC の利用が促進されていると考えます。

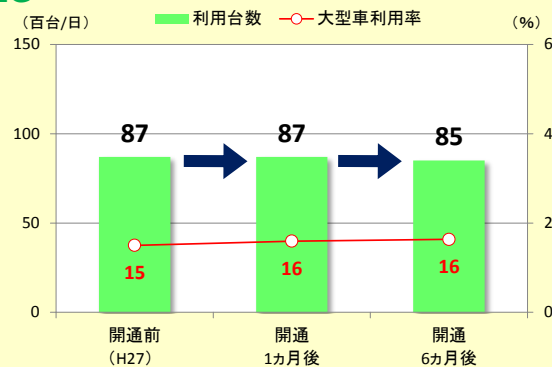
○ 国道 266 号の主要渋滞区間である嘉島町上仲間交差点付近では、城南スマート IC の開通に伴い、断面交通量が約 5% 減少しています。（約 1,000 台/12h 減少）

○ 城南スマート IC の開通に伴う高速道路利用の誘発効果によって、国道 266 号の嘉島町上仲間交差点付近を通過していた交通の一部が転換し、渋滞緩和に寄与していると考えます。

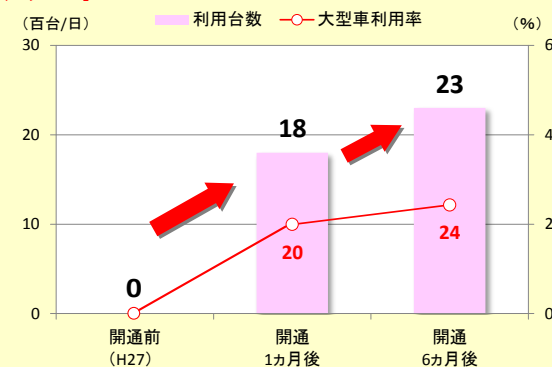


＜城南スマート IC・周辺 IC の利用台数の変化（全日）※＞

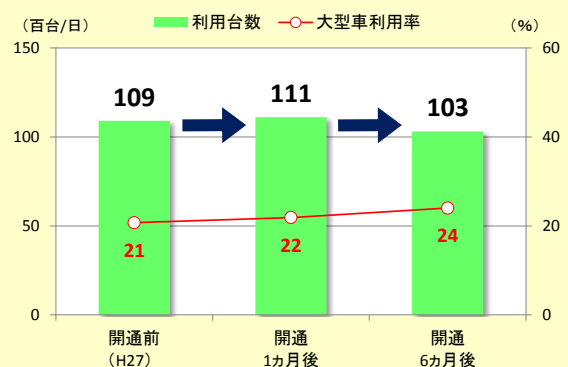
■ 御船 IC



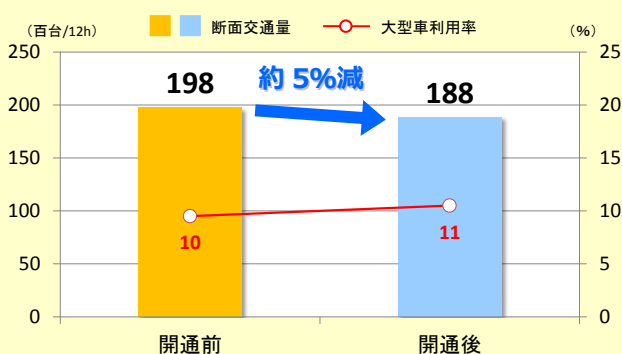
■ 城南スマート IC



■ 松橋 IC



＜国道 266 号（嘉島町上仲間交差点南側）の断面交通量の変化※＞



資料：交通量調査結果

※開 通 前：H27. 7. 19～8. 8 [熊本地震の影響を踏まえ、H27 年の開通同時期と比較]
開通 1 ヶ月後：H29. 7. 16～8. 5 [城南スマート IC 開通後第 2 週～第 4 週]
開通 6 ヶ月後：H29. 12. 1～12. 28 [年末の 12. 29～12. 31 は除外]

資料：西日本高速道路株式会社九州支社

工業振興を支援（城南工業団地および周辺企業）

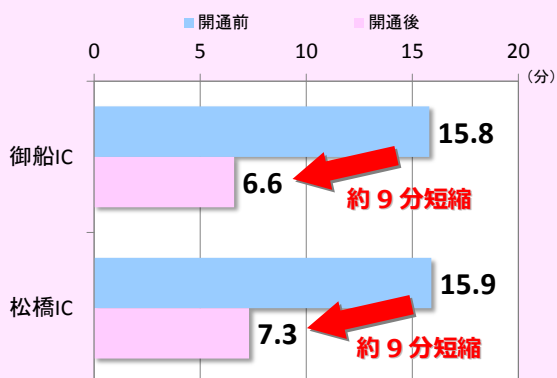
- 城南スマート IC の開通に伴い、城南工業団地から周辺 IC までの所要時間が短縮
- 輸送時間が短縮したことで、ドライバーの負担が軽減
- 経路の選択肢が拡大し、物流の効率化を促進
- 城南工業団地自体の価値が高まり、事業拡大の機運が上昇

■ 城南工業団地から周辺 IC までの所要時間が短縮

城南スマート IC 開通により、城南工業団地から御船 IC・松橋 IC までの所要時間が約 9 分短縮します。（約 16 分⇒約 7 分）

＜城南工業団地から御船 IC・松橋 IC

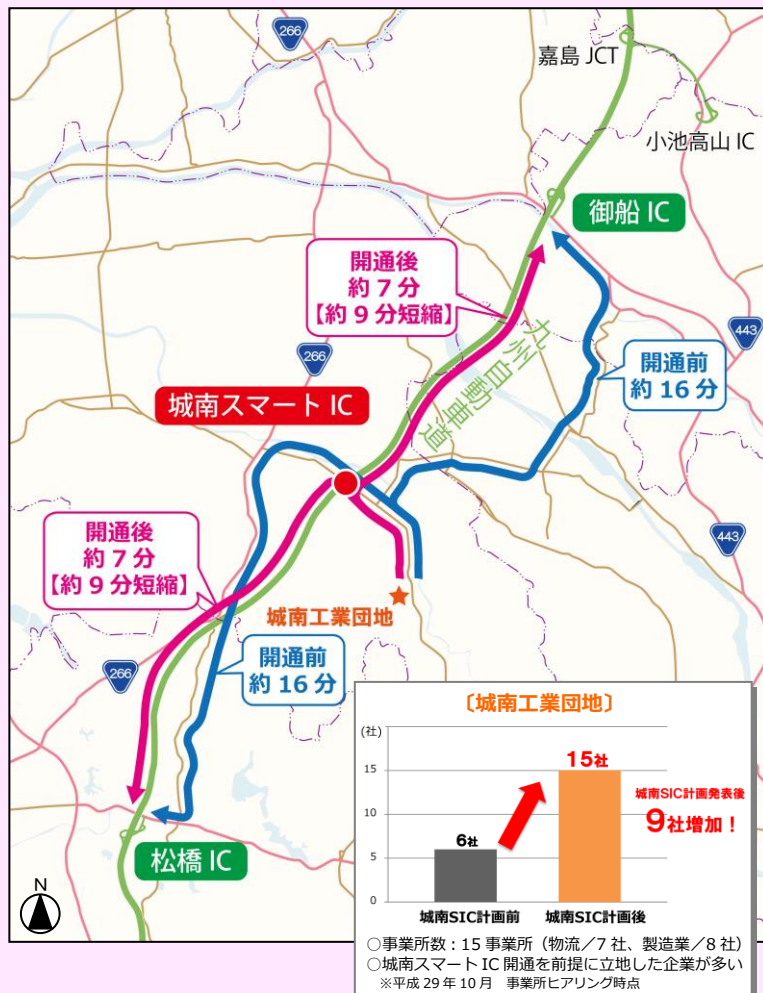
までの所要時間の変化※＞



※開通前：H29.5.1～5.31 の平日平均、開通後：H29.11.1～11.30 の平日平均

※熊本地震による影響で通行止めとなっている一部区間については速度を 30km/h と設定した

本田技研工業（株）インターナビ統計データより算出



■ 輸送時間が短縮し、ドライバー負担が軽減

ドライバーの労働環境が注目される中、輸送時間短縮によりドライバーの負担が軽減しています。



高速を降りた後、渋滞に巻き込まれるということがなくなり、ドライバーの休憩時間を確保しやすくなり、労働環境が改善しています。

ドライバーの負担が軽減しています。体力的に厳しい積込作業にも時間にゆとりを持って作業をできるようになり、また、事務所で事務作業の時間も増加し、効率的になりました。



H29.10 事業所ヒアリング

■ 経路選択肢が拡大

到着時間の都合に合わせて高速道路と一般道を使い分けるなど、時々に応じた経路選択ができるようになっています。

宮崎方面については城南スマート IC を利用しています。また、繁忙期は県内への輸送が日に 2 回となり、往路は一般道、復路は高速道路と効率的に経路を選択しています。



城南スマート IC が開通したことで急な納入依頼の場合に対応しやすくなりました（月 2 回程度）。また、営業活動についてはほとんどが城南スマート IC 利用になりました。



H29.10 事業所ヒアリング

■ 事業拡大の機運が上昇

開通から半年程度ということもあり、出荷量の変化はみられませんでした。今後事業を拡大するといった機運が高まっているようです。

今後、城南工業団地を南九州方面の拠点として整備予定であり、高速道路 IC が開通したことは有利に働きます。



熊本事業所を南九州方面の拠点として考えており、IC 開通により新たな事業展開を考えやすくなりました。



H29.10 事業所ヒアリング

救命救急活動への支援

- 救急搬送において城南スマート IC が利用され、搬送時間が短縮
- 高速道路を利用した円滑な搬送によって患者への負担が軽減
- 熊本赤十字病院までの所要時間短縮による救命率向上に期待

■ 城南スマート IC を利用した救急搬送事例

南消防署城南出張所管内から城南スマート IC を利用した病院への搬送が行われ、搬送時間が短縮したとのことでした。

宇城総合病院、熊本総合病院（八代市）への救急搬送において、実際に城南スマート IC を利用し、搬送時間が短縮しました。



H29.10 消防署ヒアリング

■ 高速道路利用による患者への負担軽減

救急搬送時における高速道路の利用が高まることで、一定速度で、揺れやカーブの少ない搬送が可能となり、患者への負担軽減が期待されます。

速度一定で搬送することができ、カーブや凹凸による揺れや振動がなく、患者への負担軽減が期待されます。



H29.10 消防署ヒアリング

■ 熊本県内の三次救急医療

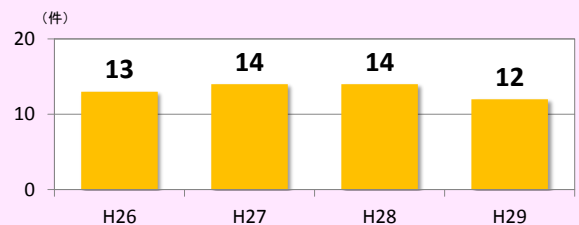
熊本県内の三次救急医療は、熊本赤十字病院、国立病院機構医療センター、済生会熊本病院、熊本大学医学部附属病院の4箇所です。

熊本市南部地域や宇城圏域※の最寄りの搬送先は、済生会熊本病院となりますが、受け入れ態勢に余裕がない場合などは、熊本赤十字病院を利用するケースもあります。

南消防署城南出張所管内から熊本赤十字病院への救急搬送は、年間10件以上発生しています。

※宇土市・宇城市・美里町（第6次熊本県保健医療計画より）

＜南消防署城南出張所管内から 熊本赤十字病院への救急搬送件数の推移※＞



※各年4月～12月の発生件数

H30.3 消防局ヒアリング

■ 熊本赤十字病院への搬送時間短縮による 救命率向上に期待

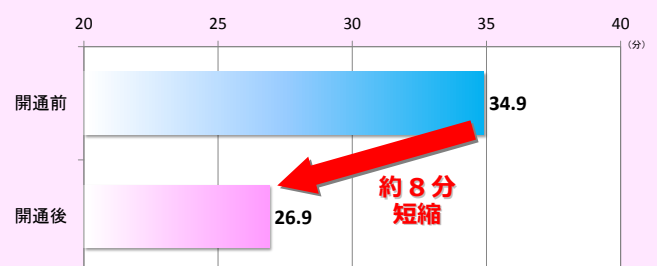
現在、城南スマート IC を利用した熊本赤十字病院への救急搬送事例はないものの、今後は搬送経路として利用される可能性があります。城南スマート IC を利用することで熊本赤十字病院への搬送時間が短縮し、救命率の向上が期待されます。

現在、城南スマート IC を利用した熊本赤十字病院への救急搬送事例はないものの、搬送経路として利用する可能性が高いです。



H29.10 消防署ヒアリング

＜城南まちづくりセンターから 熊本赤十字病院までの所要時間の変化※＞



※九州自動車道を利用した場合の所要時間

※開通前：H29.5.1～5.31、開通後：H29.11.1～11.30の平日平均

本田技研工業（株）インターナビ統計データより算出

